

沙美地区社協だより

発行 沙美地区社協 広報部

三世代交流歩け歩け大会

令和三年十一月二十三日（火曜日・祝日）

好天に恵まれた恒例の大会に役員を含め五十五名が参加しました。今年度の大会は、二つの目的をもって実施しました。一つは、世代を超えて交流し、健康増進を目指すということ。もう一つは、歴史探訪です。江戸時代、参勤交代の宿場町として栄えた矢掛町を歩き、タイムスリップして、篤姫も宿泊したという本陣やさらには脇本陣などを訪れ、当時に思いをはせてみるというロマンチックな目的です。また、最近「道の駅山陽道やかげ宿」が開館したので、そこを拠点



に歩くことにしました。大会当日、九時三十分寄島タクシーの貸切バスで、定員外の役員は各自の車で出発。十時三十分、「道の駅山陽道やかげ宿」到着。道の駅の職員の方がバスの駐車場確保や雨天の際の代替休憩所手配、昼食時の椅子・テーブルの増設置などたいへん懇切な手配をしてくださっていました。

十一時、ウオーキング出発、多聞寺、専教寺経由の本陣裏通りを歩き、矢掛高校や旧矢掛商業高校跡地を見ながら、やかげ郷土美術館を右に見つつ旧山陽道に出て、矢掛本陣石井家住宅に到着。薩摩藩の篤姫が将軍家に興入れの際に宿泊したのだと思うと感慨もひとしおでした。

三々五々、終点「道の駅山陽道やかげ宿」に到着。巻き寿司が配られ昼食、参加賞の袋菓子も頂き、眼前に流れる小田川、その向かいの嵐山をやりながら語り合いを皆で楽しみました。

寄島タクシーさんには、コロナの関係で運行中止もありうることを理解していただき当日まで配車待機してくださり大変感謝。

地域の参加者は四十六名、黒崎公民館、黒崎中学校、沙美小学校、沙美郵便局、玉島南高齢者支援センターの方々など関係機関からも参加をいただいて二つの目的を達成することができました。感染防止も完璧であり、その後の支障は来しませんでした。

三世代交流しめ縄づくり

令和三年十二月十九日（日曜日）

沙美小学校体育館にて、沙美地区社会福祉協議会発足以来初めてのしめ縄づくりを開催しました。小学生七名と保護者、地域の方々を合わせて二十五名の参加をいただきました。

この企画は、子どもたちに伝統の行事を繋いでいきたいという思いからです。子どもたちは飽きることなく、根気強くしめ縄づくりに励んでいました。解らなところや難しい所については、指導者の方々が参加の大人たちに積極的に話し、

教えてもらっていました。しめ縄づくりのレジエントも、教えられる子どもたちも真剣に取り組んでくれ、微笑ましい交流が出来たように思います。

来年もぜひして欲しい、もっと友だちやおうちの方にも参加してほしいと、あちこちで声があがりました。三世代が交流し、地域の文化の伝承はもろろんのこと、大人と子どもが和気あいあいと心の交流を楽しめるような行事として定着できたらと願っています。



沙美地区社会福祉協議会

役員ベストの新調

「社協の役員が誰だか分からない。そんな声を今まで何度も耳にしてきました。西日本豪雨災害の際、沙美地区社協も何度かボランティアとしてセンターに出かけました。他地区の社協はそれぞれの地区名の入ったベストを着用していました。今年度、念願叶って十名の役員が着用するベストができあがりました。倉敷市社会福祉協議会、倉敷市から助成金補助金をいただいて沙美地区社協は活動していますが、その中から援助していただき、作製にこぎ着けました。

今後、いろいろな催しの際、青色のベストを着用していたら役員ですから、お気軽にお声かけください。

挨拶

沙美地区社会福祉協議会会長

原田貞男

日ごろは沙美地区社会福祉協議会の活動にご支援ご協力を頂き誠にありがとうございます。皆様にはお元氣にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。

本年度はコロナ禍が収まるかと思っていたところ、令和四年から第六波オミクロン株が急拡大して、社協の事業が中止や延期となりました。

それでも社協が智慧をしぼって、色々と代替事業を行うことができ、皆様のご協力により成功裡に終えることができました。特に海浜清掃には多くの方が参加してくれたいへんきれいになりました。

来年度も地区社協へのご支援ご協力をよろしく願います。

ビーチクリーンアップ沙美

《ふれあい交流会代替事業》

令和三年十一月十四日（日曜日）

例年、玉島黒崎公民館で行われてきたふれあい交流会はコロナ禍により屋内実施が不可能となり、代替事業として表題の海浜清掃を沙美西海水浴場および沙美東海水浴場で行いました。例年、倉敷市主催で行ってきた清掃活動がコロナ禍により中止となっていたため、感染対策に気を配りながら実施しました。

沙美学区小地域ケア会議のメンバー、地域住民、保育園の先生方、小中学校の先生と児童・生徒の皆さん、地域のカフェの方々、介護保険事業所五事業所の職員の皆さん、「地域の戦力」の方々など総勢百五十五名が参加してくれました。



神社周辺剪定・清掃活動

令和四年二月二十日（日曜日）

今年度の沙美まつりは新千歳楽を沙美の皆様にお披露目できると楽しみにしておりましたが、昨年に続いてコロナ禍の影響で中止となりました。その代わりとして、まつりを行う場所の清掃・整備をして次回に備えようと、各町内会より十九名・社協役員七名が参加し、神社周辺の剪定・清掃活動を行いました。当日は真冬にかかわらず汗ばむほどの陽気の中、作業をすすめることができました。多くの方々の協力により神社周辺がスッキリときれいになりました。

沙美地区社会福祉協議会

役員ベストの新調

「社協の役員が誰だか分からない。そんな声を今まで何度も耳にしてきました。西日本豪雨災害の際、沙美地区社協も何度かボランティアとしてセンターに出かけました。他地区の社協はそれぞれの地区名の入ったベストを着用していました。今年度、念願叶って十名の役員が着用するベストができあがりました。倉敷市社会福祉協議会、倉敷市から助成金補助金をいただいて沙美地区社協は活動していますが、その中から援助していただき、作製にこぎ着けました。

今後、いろいろな催しの際、青色のベストを着用していたら役員ですから、お気軽にお声かけください。

西浜に九十名、東浜に六十五名が分かれての活動でしたが、西浜では漂着ゴミや夏のパーベキューの残骸などを拾い、東浜では海岸に自生している雑草を刈り取りました。東浜では地区の方が常時ゴミの回収をされており、あまり大きなゴミは無かったからです。約一時間三十分余りで、西浜でゴミ袋百袋、東浜で八十袋のゴミが集まり、翌日には市が回収してくれました。ずいぶんきれいな海岸になりました。

神社周辺剪定・清掃活動

《沙美まつり代替事業》

令和四年二月二十日（日曜日）

今年度の沙美まつりは新千歳楽を沙美の皆様にお披露目できると楽しみにしておりましたが、昨年に続いてコロナ禍の影響で中止となりました。その代わりとして、まつりを行う場所の清掃・整備をして次回に備えようと、各町内会より十九名・社協役員七名が参加し、神社周辺の剪定・清掃活動を行いました。当日は真冬にかかわらず汗ばむほどの陽気の中、作業をすすめることができました。多くの方々の協力により神社周辺がスッキリときれいになりました。



三世代ふれあい交流グラウンドゴルフ大会

《ふれあい交流会代替事業》

令和四年三月五日（土曜日）

例年、玉島黒崎公民館で行われてきたふれあい交流会はコロナ禍により屋内実施が不可能となり、代替事業として表題の大会を沙美小学校の運動場をお借りして実施しました。

当初、沙美小学校の児童の参加を想定していたのですが、コロナ禍への配慮で不参加となりました。今後、継続事業として小学生にはコロナ収束後に参加をお願いしていく予定です。

沙美地区のグラウンドゴルフ会員の方々の指導により、まずはルールや打ち方の説明を受けた後、グループ分け、練習、そして二ゲームを行いました。

大半は初めての経験でかなり緊張していましたが、ハーフを終える頃にはすっかり楽しんでプレーできるようになりました。端で見ていると簡単なように見えますが、実際にやってみると、ボールに当たらない、狙う方向に行かない、思う距離が出ないなどかなり難しい競技です。四人から五人が一組となり一番から八番まで競い合います。

各ホールを何打で上がったか、打数が少ない人が上手となります。八ホールの合計で上位を競います。ゴルフと同じです。最近は大きな競技大会もあるようです。八ホールがハーフです。それを何回か廻り、トータルで結果を決める。ホールも



廻ると知らない間に数千歩歩くことになり、よい運動になります。健康のためにぜひ参加してみたいかがですか。参加者を募集しています。

友愛訪問（食事訪問）

令和四年一月二十日（木曜日）

地域の皆様、コロナ禍をいかがお過ごしでしょうか。

ミニ健康展や公民館祭が中止になり、直接皆様と触れ合う機会が少なくなりました。年間通して活動してきた友愛訪問の報告をさせていただきます。

友愛訪問とは、社会福祉協議会から委託され、六十五歳以上の独り暮らしの方・寝たきりの方の見守りをする事です。今年度の対象者は、百十三名でした。

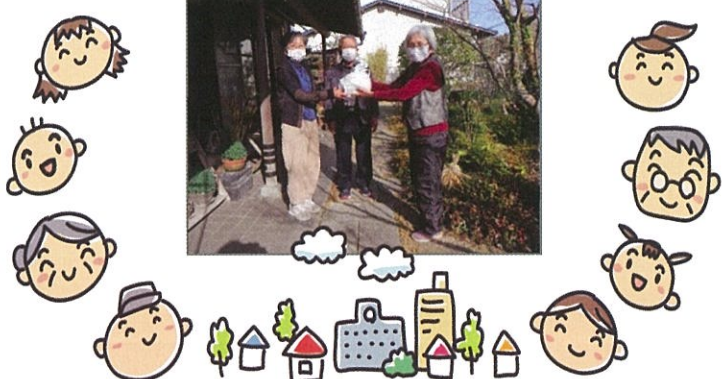
沙美地区では、友愛訪問の対象の方以外にも、八十歳以上の二人暮らしをされている方、九十歳以上の方でご家族と同居されている方々も対象とさせて頂いた。見守りをしており、毎年一月には、地区社協からも援助をお願いし、心ばかりの品をお届けする食事訪問を実施しています。今年も一月二十日（木）に百四名のお宅を訪問し、赤飯・お菓子・ティッシュをお届けいたしました。

八十歳を過ぎて、とてもお元気で「わざわざ届けてもらわなくても、自分の食べることは自分でできるよ。」とおっしゃる方もいらっしゃいます。毎月、サロンで楽しく談笑され、生き生きと活動されている方もいらつしやいます。食事訪問

をして、そのような声が聴けるのも私たち愛育委員の喜びです。

もしも一人でお暮らしになる中で、不安に思われることや不便を感じたり困られたりすることがあれば、遠慮なく、お近くの愛育委員までご相談ください。高齢化が進みゆく中、地域の皆さんがお互いに声を掛け合い助け合って、安心して暮らせる沙美地区でありたいものです。

愛育委員は、健康と福祉のボランティアとして、皆様のお役に立てればと思いい、日々活動しています。友愛訪問だけでなく、幼児健診やレントゲン検診の援助、ミニ健康展など、赤ちゃんからお年寄りまで、地区内の方々の皆様が安心して健康で幸せに暮らせるように、これからも、皆さんのお近くでそと目配り気配りをしてまいります。今後ともよろしくお祈りいたします。



「めぐみ会」

いよいよコロナの収束も間近かと期待して迎えた令和四年のお正月。今年はいろいろな事が出来そうと、あれこれ

頭に描いたのも束の間、期待はみごと外れ、まさかのまさかまでコロナは爆発的に猛威を振り出した。

心を繋げて三十九年となるめぐみ会（沙美地区独り暮らしの会）も、寄る年波には勝てず足腰の痛みをかかえ、残念ながら会を退く人も出てくる有様となってきた。二年前までは年六回集い、和気あいあいと談笑し、笑い声はじけていたのが懐かしく思えてならない。今までの当たり前は、実はありがたいことだったのだと改めて感じた。可能ならば、今年度末の三月に昨年同様、お花見でも出来れば幸いと願っているが果たしてどうなることか？

振り返ってみると、今年度は何と十一月に一度きりの開催ができただけだった。その時は玉島南高齢者支援センターさんに来ていただき、「夢の旅行」を想定してあれこれ思いをめぐらせてのやりとりで楽しんだ。皆の希望の旅の行き先は和歌山県の白浜。乗り物は？何を食べる？お土産は？つぎつぎと飛び出す珍問答に大笑い。ちなみに食べた物はクエ鍋お土産は那智黒。短時間ではあったが夢が膨らみ旅気分を味わった。八ヶ月間もの空白があったにもかかわらず、同じ交流のなかで違和感もなくすぐに深まる連帯感に安堵した。

共に生き、共に生かされて日々感謝しながらこれからも地域の中で元気を維持し続ける会でありたいと強く願う。この先、いつまで不安やもどかしさ、自粛が続くかわからないが一日も早いコロナの収束が待たれる。

敬老会

代替事業（不織布マスクの配布）

一昨年度から、友愛訪問（食事訪問）に加えて新企画として食事訪問対象の方々をお招きし、敬老会を実施することになりました。

昨年度、十月ごろに開催を予定していましたが、新型コロナが蔓延して延期し、中止せざるを得なくなり代替事業として、コロナ予防に役立ててもらうために「不織布マスク」を七十五歳以上の希望者にお配りしました。

今年度もコロナ禍は収まる様子を見せず、変異株が出現し、敬老会を中止せざるを得なくなりました。そ

こで昨年度同様に、代替事業としてマスク配付を計画しました。全戸配付で案内書を配り、希望者を募りました。

取りまとめから配付まで町内会長さんにはお世話になりました。百五十八名の方々にお配りできました。マスクをしてコロナに負けずお元気で過ごしてください。

敬老会はできませんでしたが、マスクは使っていたら、ふるって参加されずようよろしくお祈りします。

コラム「チャボは何処へ」

令和三年の真夏の暑い日照りが続いたある日のこと、我が家の畑に何処からか迷い込んだ一羽のチャボがいた。はたけの近隣の人に尋ねると、「どこから来たのか知らないが朝から元気で大きな鳴き声に目が覚める」とのこと。二軒ほど心当たりを当たってみたが分らないと言われ。仕方がないのでそのままにして様子を見ることにした。

しかし、畑の中をあちこち歩き回っているチャボは、一体何を食べているのか心配で次の日、家から小麦の実を持って行き、ばらまいてやったり、なにかに襲われたりはしなければいいかと気になることこの上ない。畑にいく回数も増えてきた。

近隣の人がわく、「畑に植えてあるブルーベリーを食べていたよ」と。見ると上の方だけネットを掛けてい

たブルーベリーの木は下の実がなくなっていた。

チャボの餌になっていたのかと、ひとまず安心した。その後お天気がくずれ、雨が二日程続いた。どうしているか気になり、雨上がりに早速畑に行く。チャボの姿はどこにも見当たらない。何かに襲われた様子もなく、忽然と姿を消していた。鶏は鳥目と言って、暗くなると目が見え難くなるというけれど、もしかして我が家の畑に迷い込んだチャボは、目に効果があるブルーベリーをたっぷり食べて、雨を予測してその前夜に夜道を歩いて、飼い主の家に戻ったのだろうか？さだかではないが、どうか無事にたどり着いたことを祈っている。

謎につつまれた夢のようなひと夏の出来事だった。

